

**非鉄スクラップ展望**

# 10月の銅・アルミスクラップ市況見通し

橋本アルミ株式会社 橋本健一郎取締役(大阪非鉄金属商工協同組合理事長)

## 米中貿易戦争とLME在庫の増減に注目

10月は米中貿易戦争の行方とLME指定在庫の増減がポイントになるだろう。米中貿易戦争に関しては、米国が当初2,000億ドル相当の中国からの輸入製品に対して25%の上乗せ関税を課す予定だったが、10%に減少させ中国高官との交渉を検討するなどの譲歩案を出した。しかし、交渉は流れたうえ追加の関税に言及していることから、収束に向かう可能性は低い。

LME指定在庫については、10月に入ってから銅在庫が節目の20万トンを切ってきた。これは、中国の環境規制による銅スクラップの輸入減少から電気銅を購入する傾向が強まっていること表すものだ。今後も在庫の減少傾向は続くとしている。一方、アルミ在庫も長い間の壁であった100万トンを足元で切ってきたが、米国がロシアのアルミ大手・ルサル社への制裁発動を10月23日から11月12日へと延期させたことや、米アルミ大手・アルコア社の西オーストラリアにあるアルミナ精錬所で2カ月にわたるストライキが解決したことを踏まえると、今後在庫が一本調子で減少していくとは思えない。以上2点の動向に留意したい。



橋本健一郎取締役

ら75万円まで上昇したため多少は市中に出回ったものの、問屋の塩漬け在庫は建値が80万円の時のもが多い。需要面に関しては足元の生産が比較的良好で、秋冬の需要に向けてメーカーの購入意欲は高い。ただ、品質の良いスクラップは高値で手当てしたもので、各問屋の出し渋りは十分考えられる。そのため、建値が更に上昇しなければ需給は引き締まっていくと見ている。

以上を踏まえ10月の銅価格を予測すると、米中貿易戦争で緩和に向かう話し合いや政策が見られLME銅在庫が19万トン、18万トンと順調に減少した場合、LME銅価格は6,400ドル付近。両条件が揃わなかった場合、現状から一段安の5,900ドル付近まで下落すると見込む。

## アルミスクラップの国内概況、景況予想

指標となるLMEアルミ価格は9月中旬から62.5ドル高の2047.5ドルで10月スタートした。

8月のアルミ圧延品生産出荷は板類・押出類の生産合計が前年同月比6.6%減の14万5078トンで8カ月連続減。8月のアルミ二次合金・同合金地金等生産実績は±0の5万9914トン。出荷は同1.8%増の6万2865トンで、ともに11カ月連続増。8月の輸出は、アルミ新地金がアメリカの輸入規制に伴う地金高の思惑を受けて増加。二次合金とスクラップは内需用途から減少。アルミ缶は猛暑による大量発生への荷余り感から増加した。輸入はアルミ新地金が円安から減少したが、二次合金とスクラップは中国塊の割安感から増加した。

スクラップ流通在庫は、相変わらずの中国塊の下落を受けてスクラップも連れて下落しており、売り玉が多いものの買い手は少なく飽和状態。需要面に関しては前月に続き自動車の販売が低迷していることや輸入地金の下落、関西地方の大型台風による一部メーカーの荷受け停止を受けて荷余り状態になると見ている。

10月のアルミ価格は、米中貿易戦争で緩和に向かう話し合いや政策が見られアルミ在庫が順調に減少した場合、LMEアルミ価格は2,200ドル付近。両条件が揃わなかった場合、2,000ドル付近まで下落すると見込む。

## 銅スクラップの国内概況、景況予想

10月の銅建値はトンあたり75万円、LME銅価格は9月中旬から312ドル高の6,172ドルでスタートした。

7月の四輪自動車生産台数は8万1778台で前年同月比2%減。8月の国内自動車販売台数(軽除く)は30万8324台で同3.1%減。8月の住宅着工戸数は8万1860戸で同1.6%増だった。8月の伸銅品生産は同1.3%減の5万9213トンで3カ月連続の減少。今後も減少傾向が続くのかどうか注目。8月(推定)の銅電線出荷は同2.2%増の5万4800トンで建設電販は5カ月連続の増加となった。8月の輸出に関しては、銅地金が円安の流れから増加。スクラップは内需用途から減少。輸入はLME価格の上昇や円安を受けての割高感で減少している。

スクラップ流通在庫は、銅建値が9月初めの71万円か

銅10月予想レンジ		基調
LME銅セツルメント	5,900~6,400ドル	強い
銅建値	700~770円(円)	強い
為替	1ドル=111~114円(1カ月間TTM)	円安

アルミ10月予想レンジ		基調
LMEアルミ現物後場買い	1,900~2,100ドル	変わらず
スクラップ価格	0~+5円(前月最終価格より)	変わらず
為替	1ドル=111~114円(1カ月間TTM)	円安